

勝瑞周辺の史跡・みどころ



城跡

- ①板西城跡
三好義賢の娘婿、赤沢信濃守の居城。赤沢信濃守は、中富川の合戦で三好方の先陣をつとめたがあえなく討死にした。墓所が愛染院にある。
- ②上荘城跡
『板野郡誌』によると、「矢武乾の方字西にあり今耕地となれり」とある。赤沢美濃守の居城とされる。
- ③椎ノ本城跡
赤沢信濃守の一族、板東紀伊守の居城。板東紀伊守は、中富川の合戦で討死したといわれ、その墓は同地の昌光寺にある。
- ④犬伏城跡
赤沢信濃守の一族、犬伏左近の居城。犬伏左近は、中富川の合戦に出陣し、三好家と命運を共にした。
- ⑤大寺城跡
『城跡記』などによると、大寺松太夫の居城で、中富川の合戦で松太夫が討死するとともに落城したとされる。
- ⑥川端城跡
戦国時代には、川端越前守の居城。川端越前守は、蜂須賀氏入部当時勝瑞城に居住していたといわれる。天正十四年落城。
- ⑦川崎城跡
周辺には「城内」、「城の東」、「城の前」などの小字名が残る。付近には近世の渡し場跡もあり、街道沿いに位置する交通の要衝であったと考えられる。
- ⑧土居城跡
勝瑞城の外城に位置付けられる。『古城諸將記』には、「此砦は勝瑞城西ノ大手口なり、天正十年落城」とある。
- ⑨保崎城跡
勝瑞城の外城に位置付けられ、永祿・元龜年間に馬詰駿河守によって築かれたとされる。
- ⑩姫田城跡
勝瑞城の外城に位置付けられる。城主姫田弾正藤家は、天正五年に三好長治の後を追って自害した。
- ⑪大代城跡
勝瑞城の外城に位置付けられる。犬伏掃部介の居城。その子内匠は中富川の合戦で討死したとされる。
- ⑫中村城跡
城主北島権頭は、天正十年の長宗我部氏の侵攻の際に敗死し、この城も落とされたとされる。

1 地蔵寺



四国霊場第五番札所。弘仁十二年(821)に弘法大師が開いたとされる。戦国時代には三好氏の保護を受け、寺領二〇貫文を得て真言宗の宗頭を勤めた。天正十年(1582)、長宗我部氏の阿波侵攻の際に由緒ある建物や寺宝は、ことごとく焼けてしまった。

2 大日寺



四国霊場第四番札所。弘法大師が当寺で修行した際に大日如来を感得したことから、その姿を刻んで本尊とし、寺名を大日寺としたといわれる。室町期の応永年間(1393)に松法師により再興、その後再び荒廃したが、江戸時代初めに再建された。

3 愛染院



金泉寺の奥院。那東の「お不動さん」の名で親しまれる。三好氏の重臣として戦国時代にこの地を治めた赤澤信濃守の廟所が境内にある。その後には中富川の合戦で討死した一族の供養費があり、これらは板野町指定史跡にもなっている。

4 金泉寺



四国霊場第三番札所。寺伝によると、奈良時代に創建され、金光明寺と称したとするが、境内から出土する古瓦が、このことを裏付ける。天正十年(1582)の長宗我部氏の阿波侵攻の際に焼失したが、天和二年(1682)に再建された。

5 極楽寺



四国霊場第二番札所。創建の時期は不詳。戦国期には三好氏の保護を受け、一〇貫文の寺領を与えられたが、天正十年(1582)の長宗我部氏の阿波侵攻の際に大半の建物が焼失した。境内には弘法大師手植といわれる「長命杉」がある。

6 靈山寺



四国霊場第一番札所。天平年間に行基により開かれる。戦国時代には三好氏の保護を受け一三貫文の寺領を与えられた。また大麻宮の別当として七堂伽藍を有したとされる。天正十年(1582)の長宗我部氏の阿波侵攻の際に伽藍は焼失し、古い寺記も失われた。

7 大麻比古神社



「延喜式」神名帳記載の板野郡の名神大社「大麻比古神社」に比定される。阿波国一の宮。靈山寺は当社の別当寺院。戦国時代には三好氏の保護を受け、當地一町七反と山が与えられた。境内には三好氏奇進の石灯籠一〇〇本と金灯籠五〇本などがあつたといわれる。

8 光勝院



光勝院は、貞治二年(1363)に守護細川頼之によって父頼春の菩提所として現阿波市秋月の地に開かれた寺。当地への移転は、秋月から勝瑞への守護所の移転と密接な関係を持つと考えられる。戦国時代には三好氏の保護を受け寺領一三貫文が与えられた。境内には細川頼春の墓石がある。

9 東林院



靈山寺の奥院。天平九年(737)に行基によって開かれたと伝えられる。戦国時代には三好氏の保護を受け、寺領一三貫文が与えられた。その後兵火で焼失したが、江戸時代初期に中興する。高野山奥院を参詣して撫養港に上陸した選路たちは、靈山寺に参拝する前札を当寺に納めていた。

10 能満寺



寺の開基は不詳。寺伝によると、中興開基の勢助大和尚が、永祿二年(1559)に没していることから、室町時代後半に中興開基されたことが伺われる。戦国時代には三好氏の保護を受け、一三貫文の寺領を与えられた。寺宝に、鎌倉時代の作と考えられる十一面観音像(県指定文化財)がある。

11 福成寺



文亀元年(1501)に中興開基。住吉神社の別当で、三好氏の家臣山田陸太夫一家の菩提所。戦国時代には、三好氏の保護を受け、二〇貫文の寺領を与えられた。付近に「大門」と称される地があり、一三貫文の寺領を与えられた。境内にある巨大な古式の五輪塔は室町前期まで遡る形式で興味深い。

12 千光寺



白鳳年間に行基が開いたと伝えられる。阿州三好記大状前書に見る「梅之寺」が当寺であると考えられる。同書によると寺領八貫文を与えられていた。境内の臥竜梅は有名で、徳島藩主蜂須賀至鎮も観梅に訪れたと伝えられる。

13 正法寺



中世には正岡寺と称する禅宗寺院であった。正岡寺は、蜂須賀至鎮夫人の於虎により日行を中興開山として法華宗に改められた。本堂は、安政二年(1855)に建てられたもので、町指定有形文化財である。極彩色で飾った内陣の仏間付近の柱や虹梁は、注目に値する。

14 中富川合戦場・犬伏左近の墓所



中富川の合戦は天正十年(1582)に起こりました。庄酷的な土佐勢の前に一日にして敗れた十洞存保は、勝瑞城に籠城しましたが、譜帳へ退去。この戦いによって阿波が長宗我部氏の支配下に陥った、阿波の歴史上重要な戦いである。付近には、この合戦で討死した犬伏城主犬伏左近の墓所がある。

A 藍住町歴史館「藍の館」



大藍商であった奥村家住宅(徳島県指定文化財)の旧屋敷内の一角に平成元年オープン。阿波藍の栽培、加工の過程を分かりやすく展示している。また、藍染め体験もできる。藍の専門博物館として阿波藍の知識を普及するとともに、藍の生活文化の創造と藍の情報センターとしての役割を担っている。

B 徳島県立埋蔵文化財総合センター



埋蔵文化財保護の拠点として平成七年にオープン。県内の遺跡から出土した遺物や写真、大代古墳で発見された石棺のレプリカなどが展示されている。また、講演会や調査成果報告会が開催されたり、匂玉づくりなどの体験学習を楽しむことができる。